

「 美 術 I 」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	普通科 第 1 学年 1 ～ 4 組

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 美術の基礎を学びます。特にデザイン、絵画のための基本的な理論、練習をします。 2 表現する楽しさを味わい、完成する迄の過程を大切に、完成の喜びを実感します。 3 自分の個性、感性を大切に、美を感じる気持ち、美術を愛好する心を育成します。
使用教科書・副教材等	「高校美術1」（日本文教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考(学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)
第 1 学 年	1 オリエンテーション (1)高校の美術のしくみと何を学ぶのか	4	・高校美術の分野のしくみと1年間の学習計画を提示し、これからの美術の学習内容に関心を持たせ、その意義や内容、評価について理解します	
	2 アクリル絵の具の使い方 (1) 色彩理論 (2) 季節の表現	5	・アクリル絵の具を実際に画用紙に塗り分けて確かめます。混色の仕方や平塗りの方法を実践から学びます。 ・色彩理論の基礎(色の3属性、3原色、色調等)を学びます。	
		6	・色調の意味を理解して季節感を色で表現した作品を制作します。	
	3 鉛筆デッサン (1) 鉛筆のグラデーション (2) 手のデッサン	7	・鉛筆の濃淡でグラデーションをつくります。 ・鉛筆を使って自分の手の精密デザインをします。基本的な物の見方、	

期			良く観ることの大切さと鉛筆の使い方を理解します。	
	【課題・提出物等】 1 授業で提出したスケッチブック			
	【第1学期の評価方法】 1 スケッチブックを通して1学期の授業の作品に至るまでの過程、板書事項を確認し授業に対する取り組み態度も評価します。2、3で提出された作品を見て総合的に判断します。 2 学期全体の評価は作品点（スケッチブック、2、3の作品）で80%、学習活動への参加の態度や出席の状況で20%の配分で行います。			

第 2 学 期	1 絵画（銅版画） 主題：不思議な世界	9	・ 銅版画の技法を他の版画の技法と比較して銅版画の様々な表現を学びます。	
		10	・ 主題は不思議な世界ですので、超現実主義、シュールリアリズム名世界を表現します。想像力と銅版画ならではの繊細な表現、線の描写をどうするかがポイントです。	
	2 彫刻（木彫） 抽象彫刻の制作	11	・ 教科書や資料で抽象彫刻の鑑賞をして具象と抽象の違いを学びます。 ・ 桂材を使って各自のテーマにより彫刻刀や切り出しで彫りあげます。	
	【課題・提出物等】 1 1の授業で提出された作品 2 2の授業で完成した作品			
	【第2学期の評価方法】 1 1、2で完成した作品で総合的に判断します。提出された作品以外に、普段の授業に対する取り組み態度、出席の状況も評価に含まれます。			

	2 学期全体の評価は作品点（1、2 の作品）で8 0 %、学習活動への参加の態度や出席の状況で2 0 %の配分で行います。		
第3 学期	1 レタリングの応用 ポスターのためのレタリングの作成 (1)明朝体 (2)ゴシック体及び創作文字	1 2 3	・ 2 年次の 1 学期に制作するポスターに備えてのレタリングを制作します ・ 指定された書体、大きさにレタリングし、アクリル絵の具で着色します ・ 方眼紙、トレーシングペーパーを使って、ケント紙にレタリングする方法を学びます。 ・ 創作文字を制作することによりレタリング学習のまとめとし、自分の持ち味を表現します。 <

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	美術教育は今まで培われてきた個人の感性、創造性によるところの多いものです。固定観念にとらわれない、柔軟なものの見方、考え方は人間性の幅を広げ、想像力、発想力を伸長させるための基盤です。素直に主体的に臨むことで豊かな感性が育まれます。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・まず、授業中は静かに説明を聞き、やり方を理解し、集中して制作することが大切です。また、教材・用具の準備も始業前にしておいてください。 ・提出物は、期限を厳守してください。欠席等で作業が遅れた場合は放課後残って遅れを取り戻して、期限に間に合わせてください。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・ 関心をもって授業に臨み、意欲的に学習活動に取り組んでいるか。 ・ 常に美を意識しながら、表現することに心がけ、完成に至る喜びを感受できるか。	・ 学習活動への参加の状況や態度 ・ 提出作品やスケッチブックの内容
芸術的な感性 や表現の工夫	・ 身の回りの形や今までの体験、経験から芸術的な感性や想像力を働かせ、作品の中に美しさや表現の工夫として反映できるか。 ・ 自己の表現したい物を表す方法を工夫したり構想することができるか。	・ 授業での取り組み ・ 提出作品、スケッチブック
創造的な表現 の技能	・ 創造的な表現・独創的な表現をするために適切な表現材料の技能や具、表現形式を選択、効果的に活用できる技能、力を身に付けているか。	・ 授業での取り組み ・ 提出作品
鑑賞の能力	・ 自分の作品を様々な観点から客観的に分析して自己の考えを述べ、良い点反省すべき良い点を把握し次にいかせるようにできるか。 ・ VTRを鑑賞し内容をきちんと理解できるか。	・ 鑑賞の態度 ・ 制作レポート

3 担当者からのメッセージ

- ・ 下手だからとか、不器用だからといって欠点がつくことはありません。集中して真面目に頑張れば良い作品になります。頑張る気持ちがまず大切です。
- ・ ・ 1年間の授業の中で、鉛筆の使い方、アクリル絵の具の使い方といった基本的な表現方法を学びます。そして美術の授業の中で一番大切なものの見方について考え、十分に理解するようにしてください。